



大げさにいえば人の生き方は様々！②

施設長 松島栄一

浅草についてそのにぎやかさにまず驚かされたのでした。先ほどまでの静けさとは打って変わり、仲見世あたりはもうたくさんのお客が歩いて、外国の方も多く。花やしきから六区のあたりに来ると、まだ午前9時だというのに、飲み屋さんは開いているし、もう店頭でビールを飲んでいるお婆さんはいるわ、とにかくいろんな生き様を持った人があふれているという感じでした。さすがはかつての日本一の繁華街。

「朝からビールなんだ」とか、「やたらと目つきの鋭いお婆さんやお爺さんが多いな」とか、どこかでお祭りでもあるのか、はっぴを着て自転車にのっているおじさんがいる。「もしかしたら一年中來ているのかな」などと思いながら、あまりじろじろと見るわけにもいかず、歩いて回りました。とても午前中の風景とは思えないにぎわいの中、それぞれの生き方が混在している街なんだなと思った次第です。こちらを見れば、寄席にストリップ劇場。振り返ればユニクロとこれまた新旧の象徴がごちゃごちゃになっている街。その中で生きているのは「どういう気持ちなんだろう」などと思い巡らせてしまったのでした。偉そうなことを言ってしまうと、「それでいいんだな」と、考えるのではなく感覚として心地よく感じてしまいました。

「いろんな街があり、いろんな人がいろんな生き方をしてるんだ」と、当たり前なのに改めて感じ入ってしまったのです。街並みは人々の生き方の集約された形だと思えば、ますますいろんな街をただ歩いてみたくなりました。今度ご一緒にいかがですか。

もしもよろしかったら… ～ご協力のお願い～

スーパーなどでもらうビニール袋で、もし不要なものがありましたら、けやきに少し分けて頂ければ幸いです。日々の汚れ物などを入れるものとして大変重宝しています。よろしくお願いいたします。

7月の予定

7月23日(月) ～健康チェック週間

「けやき」夏季休業期間のお知らせ

8月11日(土)～8月15日(水)は、夏季休業期間とさせていただきます。
よろしくお願いいたします。

「けやきの今」第2回

2007年に始まった生活介護事業「けやき」は6年目。
定員10名の小さな事業です。小回りが利く分、5年間の

うちにいろんな事情が積み重なって、それを工夫して乗り越えていくうちに、職員自身も「なんでこうなっているの?」と思ったりするほど、複雑なカラクリになっていることも出てきました(苦笑)。もちろん、元をただせば、そこにちゃんと理由や経過があるのですが…。そこで、「けやきの今」を、紙面上で時々掲載して、「けやき」の状況をお伝えしながら整理していこうと思います。できるだけシンプルに整理して「けやきの今」が伝われば…と考えています。よろしかったらお付き合い下さい。

～「けやき」の活動～

<大雑把に活動を説明すれば…>

現在、けやきは肢体不自由の方が中心の「光」グループと、比較的運動が出来る方が中心の「風」グループに分かれて日々活動しています。拠点の建物が止むを得ず2か所に分かれているなどの関係で、それぞれ独立したグループとなっており、日常的にはほとんど交流はありません。ただし、各種行事などは「光」と「風」が共同して行っています。

「風」の活動内容は、「ウォーキング」「絵描き」「音遊び」「配達」などがあります。

「光」の活動内容は「散歩」「デザート作り」「梅シロップ作り」「けやき製品作り」「マッサージ」「音遊び」「木洩れ日送付作業」などがあります。

また、「風」「光」共通のものとして「仲間の誕生会」「月1回の健康チェック」などもそれぞれで行っています。

<現在の活動の課題はたくさん…>

「光」「風」のグループの分かれ方にはっきりとしたルールがあるわけではありません。現実には全体の中の都合と個々の状況などを考えて線引きされています。ただ、その線引きでも当然、「帯に短し、たすきに長し」という状況が生まれます。例えば、「歩く」や「ウォーキング」について現在、「もう少し長く歩きたい方」と「もう少し短めにウォーキングしたい方」がいます。それでもその他の活動などを総合的に考えると今のグループの中で活動してもらおうことになっていたりします。その他、「絵描き」「音遊び」なども「光」「風」の仲間と一緒に活動した方が面白いのではないのか、と思えるときも多くあります。

しかし、その日その日の情緒面・体調面などで変化のある方の多くいる「けやき」では、その日の活動も「光」「風」双方で、その日の仲間の様子を勘案して、その日に決めることをしています。つまり、曜日毎に決められたプログラムは基本的にない状態でこれまでやってきています。そんな仕組みのなかで、その日の個々の仲間の様子などを「光」「風」でつぎ合わせて、全体としてのその日の活動の形を決めるには、現状が拠点2か所に分かれて行なわれている現在、ちょっと困難な状況です。もちろん、何回か試みも行なわれ、日々の活動を合同でやる「大地」(仮称)というグループを作って行なったこともありますが、実際にやってみると、お互いの職員がお互いの仲間を、付き合いが浅いことで、グループワークの中で捉えきれなかったり、職員構成の都合で難しかったり、トイレなどの拠点設備の問題などもあり、なかなか継続した活動にはなっておりません。

その他、次のことは別の機会に改めて触れたいと思いますが、「集団になじめない仲間の

存在」があります。「けやき」のような狭い拠点では逃げ場がなく、それでもなんとか一緒に活動する中で集団のなかで自分の居場所を見つけて慣れてくれることが多いのですが、中には 2 年、3 年というスパンではとても「集団に慣れる」ということが難しい方がいます。実際にこれまでも数名が職員との関係はなんとか保ちながらも「けやきではもうこれ以上がんばれない」と去っていきました。だからといって容易には本人が安心できる別の活動場所が見つかるわけでもありません。こういう集団への困難さを抱えている仲間が安心できるような、本人理解や対応、拠点整備は大きな課題です。

その他、「摂食介助」については、年何回か千葉県歯科医師会のご協力で直接、職員が指導を受ける機会を持っておりますので、摂食時の、本人の姿勢や給食の加工の按配、介助の仕方などを不十分ながら行なっておりますが、「理学療法」的な視点でのアプローチはとても弱く、実際にそれを行なう知識、備品、スペースなども整わずにいます。

<課題に少しでも取り組んで進みたい>

いずれの「課題」も「けやき」の現場では強く意識されていることですが、具体的な改善への見通しは、多機能型事業の一部分で定員 10 名規模の「けやき」が申し訳ないことに明るくない状況です。ただ、小さな一歩でもなんとか進んでいきたい。何かいいアイデアなどがありましたら、是非、ご意見、ご提案いただければありがたいと思います。 (西)

～「けやき」ミニ・ギャラリー①～

<ある日、みんなでキュウリを切ってみた！>



包丁で切ったり、スプーンで上手にそいだり…
浅漬けにしてみた…



そして、食べてみた！
美味しい!!

なかなかニュースでは報じられない「障害福祉情報」

- ★ 「障害者自立支援法の廃止」と政府の言う、実際にはほとんど内容が変わらない「障害者総合支援法」が 6 月 20 日に参議院本会議で賛成多数で可決・成立しました。当然、違憲訴訟原告団から、国に対して和解での「基本合意」の約束反故について法的な責任を問う動きが出ています。
- ★ 内閣府の障がい者制度改革推進会議の一環で障がい者差別禁止法制定に向けた部会では、その骨格提言のまとめの作業に向かっています。

～「けやき」ミニ・ギャラリー②～

<ある日、太東海岸に出かけてみた！>



お願い 「けやき」の活動の様子画像を今年度も「木洩れ日」や「生き生き展用のポスター」「けやきホームページ」などに掲載したいと思います。掲載を希望しない利用者・保護者の方は、お手数ですが「けやき」（担当；西）までご連絡下さい。

長～い編集後記 ▼「障害者総合支援法案」は、障害者自立支援法の廃止といいながら、その中身をほとんど変えぬまま、名前を変えた。衆議院での審議はなんとたったの3時間。どうしてまともな話し合いがないのだろう。百歩譲って「いろんな事情がある」としても、政府や政治家から、違憲訴訟団に対して、形の整った「建前」の説明すらない。▼これは「障害」分野が選挙での票としてマイノリティ（少数派）だから軽視されているのか？と思っていたが、消費税増税やあれだけの事故を起こしている原発関連法案でも同様であることに泣きたくなくなるほどに驚いている。失敗や現状を整理して分析して、では何が必要か、どうしたらいいか策を練り、実行に移す。こんなことは「けやき」でも日々行なわれていることだ。それが失敗や現状の整理など無視するかのように一見しても「？」ばかりのまともな説明のない「増税可決」「再稼働決定」「沖縄基地にオスプレイ配備決定」が、「障害者自立支援法廃止の基本合意を踏み倒す」のと全く同様の形で決まっていく。さらに、だ。ドサクサに紛れ原子力法案の中に、審議が一切ないまま「平和利用」が「安全保障」にすりかえられた。そしてトドメは「反原発デモ」のようなニュースをテレビはもちろん、新聞もまともに報道しない。▼もうずいぶんと以前から、いろんな識者が「今の日本は戦前の戦争に突入していく状況に似ている」と警告していた。それを聞くたびに、そうかもしれないかなあ…と鈍く思っていたが、今は本気でそうかもしれないと思っている。国政のレベルで言葉が意味を持たない。命を大事にする価値観が無視されていく。私たちは、不景気で、震災復興で…だから仕方がない、なんて妙に納得している場合ではない。下手をすれば、この流れを止められなくなって、重苦しい中で言いたいことを言えず、弱い者がさらに弱い者を叩くことになる。ちゃんと言葉を取り戻そう。説明の付かないものには説明を求めよう。理想をちゃんと意識しよう。「お金」「効率」といった価値観や「利那主義」などの雰囲気にかき回されて、「今、私たち一人ひとりが此処に生きていること」を手放すまい。あなたや私はどんなに格好悪くても、力がなくても、かけがえのない一人の人間であり、命であることを捨てちゃいけない。そのことを、わら一本でもいい、ちゃんと握って手放すまい。▼ここへ来て、ますます、障害者自立支援法廃止の運動が「障害をもつ者」のための運動ではなく、「人間」にとっての運動であることを意識している。 (西)